埼臨技だより

発行所　公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会　〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048 (824) 4077　FAX 048 (824) 4095　URL:http://www.sairingi.com/
携帯URL:http://www.sairingi.com/keitai/index.html　Twitter : @sairingi

日本臨床衛生検査技師会 平成27年度定期総会開催される

一般社団法人日本臨床衛生検査技師会平成27年度定時総会が、平成27年５月23日（土）午前10時より、大森東急ＲＥＩホテル　５階「フォレストルーム」にて開催された。

10時より横地専務理事の司会で始まり、宮島喜文会長から、①法改正を含めた検体採取・検査説明の動向、②来年に迫った国際学会、③少子高齢化対策、④事務局機能の拡充、⑤学術の充実（教本31冊の刊行）、⑥法改正について等の報告がなされた。

総会に先立ち、佐藤乙一氏、下杉彰男氏、早田繁雄氏、小﨑繁昭氏の４名が名誉会員として紹介され、続いて、永年職務精励者表彰があった。受賞者は全国で1,164名、関甲信支部で148名、埼玉からは45名が、神山、小山、長岡の３理事も表彰された。引き続き、日臨技有功賞の会長賞が日野浦雄之氏に贈られた。

総会は、議長に原田典明氏（首都圏支部）、副議長に所嘉朗氏（中部圏支部）、資格審査員に、池澤剛氏（関甲信支部）、書記に菅原伸大氏（首都圏支部）と岡田茂治氏（日臨技）、議事録署名人に横山一紀氏（首都圏支部）と宮島喜文氏（日臨技）が選任された。

この総会での会員数は、53,588名、退会等で1,034名減り、52,554名であり過半数は26,278名であった。委任状が27,860名、議決権行使1,978名、当日出席98名で合計29,936名で56.96%となり会員の過半数を占めて総会は成立した。しかし，定款の改訂である第二号議案の審議のための定足数である２／３には届かなかった。

第一号議案は監事の選任で中森泉弁護士、高原和之公認会計士の二名が選任された。第二号議案については，審議のための定足数を得られなかったが，議題提出の経緯について執行部より説明がなされ、あくまでも仮といった形で評決の提案がなされた。この件に関し会場から定足数を満たさない状態で、例え仮の形でも議決を取ることに対する異議が唱えられたが、議長の裁量により仮審議がなされ賛成多数の結果が得られた。第三号議案は、事業報告及び決算報告で、詳細な説明が行われた後に評決となり可決された。

今回の総会について、あくまでも一会員として意見を述べると、委任状・議決権行使書の提出者が少なかったことは大きな問題と考える。総会は会の最高決定機関であり総会で投じる一票は会員の権利である。もし、議題に反対ならば議決権行使書で反対すべきであり権利放棄は避けるべきである。また、第二号議案の定款変更は会員へ十分な説明を行った後（議案書ではなく）に議題上程すべきではなかろうか。定款は会の法律でありそれを変更するには支部経由で委員を選任し、十分な期間をもって審議すべきであった。特に、今回の変更案は遵法のための変更ではないため急ぐ必要はなかったと考える。しかし、仮決議の時に反対で起立したのは周りの席では津田・神山だけであり、以外と皆は納得していたのかと驚いたのも事実である。

（文責：津田聡一郎、神山清志）

埼臨技会誌編集委員会よりお知らせ

１.「埼臨技会誌」投稿規定の一部が改訂されました

平成27年６月１日付で「埼臨技会誌」投稿規定の一部が改訂されました。当会のホームページに掲載されておりますので、今後の論文投稿の際、参照してください。

また、原稿テンプレート（Word）をダウンロードできます。これを利用して原稿を作成することができますのでご利用ください。

会員の皆様からの積極的な論文投稿をお待ちしております。

２.平成26年度埼臨技会誌優秀論文賞について

平成26年度埼臨技会誌優秀論文賞は下記の論文に決定いたしました。

第61巻３号　（Vol.61 No.3 2014）

分　類：原著

テーマ：学校検尿の蛋白定性検査におけるクレアチニン補正の有用性

齋藤　真紀子氏（一般社団法人 浦和医師会メディカルセンター）

埼臨技会誌編集委員会

第44回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

運営部長　荻野　毅史

本年12月６日（日）大宮ソニックシティで第44回埼玉県医学検査学会が開催されます。まずお知らせしたいのは、一般演題の締め切りは７月15日です。発表を予定している皆さんの準備は進んでいますでしょうか？昨年は過去最多の演題数を記録しました。昨年発表した方は今年もトライしていただきたいですし、去年かなわなかった方には今年こそエントリーしていただければと願っています。学会のテーマは「がんを『識（し）』る」ですが、一般演題の内容はもちろん自由です。

私が中学生だった頃（30年前？）、富士山は休火山でしたが、今は活火山です。そして医学も30年前とでは、かなり進歩しています。例えば、O型の血液は、誰にでも異型輸血ができるとされていました。そして、胃には細菌がいないのが定説でしたが、今ではヘリコバクター・ピロリ菌の存在と、胃がんとの関係が明らかとなりました。教科書でしか知らなかったデング熱やエボラ出血熱の対策を現在では真剣に実施しています。また、安全な放射線などないことが突きつけられ、宇宙人すら存在しそうな？現在です！。臨床検査の力で新たなページを開きましょう！

さて、第44回学会の準備も７回の会議を経て準備も着々と進んできました。午前中は市民ホールと会議室（６階，９階）で一般演題を中心に、午後は小ホールで特別講演や市民公開シンポジウムと市民ホールでの学会企画です。学会企画ではがんの知識を深め自分のものにできる企画について学術部を中心に吟味しているところです。すでにホームページも立ち上がっています。最新情報は要チェックです！

運営部の活動はこれからですが、参加者がストレスの少ない運営を目指し、受付けや会場、エレベーターの混雑を運用で軽減できるよう思案しているところです。お楽しみに！

各研究班の研修会報告を致します。

テーマ　平成26年度埼玉県・埼玉県医師会精度管理事業報告
鉄代謝とフェリチン　その臨床的意義について

主催　血清検査研究班

実施日時：平成27年４月22日　　19時00分～20時30分
会　　場：大宮ソニックシティ 601号室　　点数：基礎教科－20点
講 演 １：平成26年度埼玉県・埼玉県医師会精度管理事業報告（血清）
講 演 ２：鉄代謝とフェリチン　その臨床的意義について
講　　師：講演：１　藤代政浩（獨協医科大学越谷病院）
　　講演：２　小林　亘（デンカ生研株式会社）
参加人数：会員26名　賛助会員６名
出席した研究班班員：齊藤雅一　庄司和春　佐野悦子　相坂由利子　大島まりこ　持田和紀
　　鈴木淳子
研修内容・感想など

今回の研修会は平成26年度精度管理報告と鉄代謝とフェリチンの臨床的意義について講演し

ていただいた。

講演１では、各血清項目の精度管理調査報告を細かに説明していただいた。平成26年度は全体的に評価が良かったようだ。しかし毎年のように誤記入や記入漏れなどがあるため、精度管理調査とはいえ患者検体と同じように慎重に調査に臨んで欲しいと指摘されていた。この講演から、日ごろの精度管理の大切さを改めて感じることができた。

講演２は血清鉄についての講演であった。鉄代謝の基礎から臨床、また試薬の特徴について分かりやすく説明していただいた。血清フェリチンは組織の貯蔵鉄量を反映し鉄欠乏貧血では低値、鉄過剰状態では高値となる。貯蔵鉄量とは関係なく高値となる症例も存在し悪性腫瘍や肝炎、慢性炎症に伴う貧血（ACD）があげられるが、このACDはペプシジンという鉄代謝調節ホルモンの産生が亢進することが要因となっている。血清フェリチン試薬については改良試薬の説明があった。主な特徴は高感度による測定範囲拡張（10～1000ng/mlを4～1000ng/mlに拡張）、検出限界と低値再現性の向上、非特異物質の影響軽減である。

今回は大変有意義な研修会であり、今後の日常業務に生かしていきたいと思う。

（文責：鈴木淳子）

テーマ　日当直時のチェックポイント！
講演１：「尿定性・沈渣」～この反応は？この細胞は？～
講演２：「基礎から学ぼう髄液検査」～症例つき～

主催　一般検査研究班

実施日時：平成27年４月22日　　19時00分～21時00分
会　　場：浦和コミュニティーセンター 第15集会室　　点数：基礎教科－20点
講　　師：講演１：山浦　　久（さいたま市立病院）
　　講演２：土屋　貴絵（防衛医科大学校病院）
参加人数：会員70名　非会員13名（申請中）
出席した研究班班員：川音勝江　山本英俊　深田茂則　小関紀之　竹山梨枝子　槇島碧
　　山浦久　土屋貴絵

研修内容・感想など

日当直時のチェックポイントということで、ルーチンで一般検査を行っていない方や新たに一般検査担当になった方、新人の方向けに、尿検査の分野を山浦技師に、髄液の分野を土屋技師にご講演いただいた。

尿検査に関しては、以前、一般検査研究班で「医師が重視している沈渣成分は？」というアンケートを実施した際に蛋白・糖・潜血・細菌という回答が多かったことから、今回はそれらにポイントを置いて、わかりやすく説明していただいた。

髄液検査は、尿検査と比較すると、どの施設でも検体数が少なく、不慣れな人が多いと思う。しかし、その一方で緊急性を要する重要な検査でもある。今回は髄液の生成から細胞数算定と細胞分類の基礎的なところから、髄膜炎の症例の解説など盛りだくさんの内容であった。

髄膜炎は早期診断と治療で予後が左右される。日当直時などに髄液検体が提出されても慌てないように、今回の研修会の内容を参考にして、手技と鏡検のポイントをしっかり押さえていただきたい。

（文責：竹山梨枝子）

テーマ　**もう一度確認しましょう！**
講演１：2015年CLSIドキュメントの主な変更点
講演２：埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告と解説（微生物）

主催　微生物検査研究班

実施日時：平成27年４月24日　　19時00分～20時30分
会　　場：大宮ソニックシティ　　点数：専門教科－20点
講　　師：講演１：池延　貴史（ベックマン・コールター株式会社）
講演２：永野　栄子（獨協医科大学越谷病院）
前田　友子（越谷市立病院）
佐藤　香里（埼玉県済生会栗橋病院）
荻野　毅史（済生会川口総合病院）
渡辺　典之（埼玉医科大学国際医療センター）
参加人数：会員69名　賛助会員７名
出席した研究班班員：永野栄子　金田光稔　砂押克彦　荻野毅史　佐藤香里　酒井利育
牧俊一
研修内容・感想など

本年度の最初の研修会で、「CLSIドキュメントの主な変更点」と「埼玉県医師会臨床検査精度管理事業報告と解説」の２つのテーマについて各講師に講演していただいた。

まず、毎年更新されているCLSIドキュメントの主な変更点では、腸チフスのAZMのブレイクポイントが追加された。他にも腸内細菌科におけるCarba-NP法が追加され、検査方法について説明していただいた。近年カルバペネム耐性腸内細菌（CRE）による医療関連感染が、問題となっている。カルバペネマーゼを検出するCarba-NP法が追加になったことは良いが、試薬がキット化されていないので自施設で試薬を調整しなければならない。検査を円滑に行うためにもキット化が望まれる。

精度管理報告と解説では、フォト、同定、薬剤感受性、グラム染色、バーチャルスライドの結果と評価方法について説明していただいた。薬剤感受性検査は評価に変更があり、その理由も含めて解説していただいた。グラム染色の推定菌種では、同定・薬剤感受性参加施設は評価対象とし、結果は良好であった。血液培養のグラム染色結果は推定菌まで報告することを目指していただきたい。初めての試みであるバーチャルスライドは、日常業務に近い評価が可能であり、結果は良好であったので評価対象問題として出題しようと考えている。

（文責：渡辺典之）

テーマ　**試薬の危険性と取扱いに関する大切な知識**
～ ホルマリン・脱灰液以外にも危険がいっぱい ～

主催　病理検査研究班

実施日時：平成27年４月24日　　19時00分～21時00分
会　　場：浦和コミュニティーセンター 第13集会室　　点数：専門教科－20点
講 演 １：試薬の安全な取扱い
講 演 ２：キシレンの特性と理想的な作業方法
講　　師：講演１：岩田　　勉（和光純薬工業株式会社）
講演２：神谷　和彦（株式会社トルネックス）
司　　会：渡邉　俊宏（上尾中央医科グループ 上尾中央臨床検査研究所）
参加人数：会員73名　賛助会員５名　非会員３名

出席した研究班班員：渡邉俊宏　岡村卓哉　森田繁　荻真里子　金泉恵美子　三鍋慎也
細沼佑介　関口久男　高橋俊介　沼上秀博

研修内容・感想など

私たちは検査を行う際に、多かれ少なかれ試薬を使用することで化学物質に触れる機会があると思われる。病理業務でもブロックを作製するときに用いる大量の薬液のほか、染色時の色素などさまざまな化学薬品を使用することにより成り立っている。今回、講演１では岩田氏に、「試薬の安全な取り扱い」を、講演２では神谷氏に「キシレンの特性と理想的な作業方法」を講演いただいた。化学物質の取り扱いには危険を伴うものもあり、その危険回避のために様々な法律により規制されている。また、薬品ラベルには単に試薬名のほか、たくさんの注意事項が文字や絵として表記されている。さらに詳細な情報はSDS（Safety Data Sheet：インターネットより最新版を入手可能）をもとに安全な取り扱いに遵守せねばならないことを分かりやすく解説していただいた。

病理部門に限ったことではないが、薬品の取り扱い方法や管理は、検査室運営における「より安心・安全な労働環境の構築」のためにも必要性があると考えられる。みなさんもそれほど気を留めることのなかった（私だけか？）試薬ラベルを、いま一度見直して“なるほど”と気付いてみてはいかがでしょうか。　（文責：沼上秀博）

テーマ　生理検査の「最初の一歩！」講座その１

主催　生理検査研究班

実施日時：平成27年４月25日　　14時30分～16時50分
会　　場：自治医科大学附属さいたま医療センター 講堂　　点数：専門教科－20点
講 演 １：初心者の為の心電図判読法
講 演 ２：実践！安全な患者移乗法（実技体験可）
講　　師：講演１：丸山　陽介（独立行政法人 国立病院機構 西埼玉中央病院）
講演２：石田　泰樹（埼玉県済生会栗橋病院 リハビリテーション科）
参加人数：会員59名　非会員１名（学生）
出席した研究班班員：野本隆之　仲野浩　高梨淳子　早川勇樹　田名見里恵　丸山陽介
横尾愛

研修内容・感想など

今回の研修会は －生理検査 「最初の一歩！」講座その１－ と題し、心電図の判読法と患者移乗法の２講演で研修を行った。

講演１では「初心者のための心電図判読法」を丸山技師にご講演いただいた。まず判読できるようになるための必須習得項目が提示され、刺激伝導系の解説、電極の付け方など基礎から解説していただいた。波形の成り立ちや電気軸の見方は分かりやすい図を利用しての講義で、理解しやすい内容であった。判読ポイントとして、心電図は常に同じ手順で見ていくという点を挙げられており、視線の動きなど具体的な方法が示されていたので実践しやすい説明であった。後半は、業務で遭遇する機会の多い波形の解説を一つずつ行っていただき、初心者にも波形の整理をしながら学べる講演であった。

講演２では「実践！安全な患者移乗法」を石田氏にご講演いただいた。人の基本動作がどのような仕組みで成り立っているかを受講者全員で体験し、その後、実際の現場を想定した患者移乗法で実技を交えて行った。リハビリテーション科よりサポートメンバーも５名参加していただき、技師役と患者役に分かれての実技の際には細かな指導をしていただいた。患者移乗が必要な場面は日常的に多くあるが、検査技師は学ぶ機会が少なく、実技講習が行えたことは非常に有意義であった。　（文責：田名見里恵）

テーマ　精度管理報告（生血3回目の結果・異型リンパ球の解説）
分析器の歴史とピットホール

主催　血液検査研究班

実施日時：平成27年４月30日　　19時00分～21時00分
会　　場：大宮ソニックシティ 601号室　　点数：基礎教科－20点
講 演 １：平成26年度精度管理・血液検査部門報告について
講 演 ２：自動血球分析装置の歴史とピットホール
講　　師：講演１：血液研究班員
講演２：高橋　一三（株式会社 アボットジャパン診断薬機器事業部営業統括部
セルダインテクニカルスペシャリスト）
参加人数：会員39名
出席した研究班班員：星孝夫　網野育雄　根岸永和　羽鳥浩司　田中正　原誠則　圓田和人
岡安幸子　軍司雅代　橋口恵子
研修内容・感想など

講演１

精度管理の資料は例年同様、人工血２濃度と人全血１濃度で実施した。今年度よりメーカーの協力のもと機種別の測定データの一覧を報告書に記載、必要に応じて補正係数を用いての評価も行った。３年目となる人全血は人工血に比べデータの収束がみられ、標準となる作製マニュアルがない中、手探りの部分もあるが機器や測定方法の改善につなげられるよう今後も継続して行ないたい。

今年も４題（リンパ球系）出題されたフォトサーベイでは、異型リンパ球の結果に乖離がみられたため、リンパ球と異型リンパ球のどちらも正解とした。また、反応性リンパ球と腫瘍性のリンパ球様細胞との鑑別のコツが示され、細胞観察の基本に立ち返って細胞の大きさ、核形（切れ込み・湾入等）、N/C比、核クロマチン、細胞質の状態等一つ一つ初心者にもわかりやすく解説された。

講演２

高橋氏に自動血球分析装置の測定時における異常値について講演していただいた。白血球の異常高値を招く有核赤血球や血小板凝集、脂質異常による赤血球溶血抵抗性増大、また血小板の異常高値となるクリオグロブリン、血小板の負誤差につながるのは巨大血小板（MDS症例）やEDTA依存性偽性血小板減少などの解説があった。血小板の異常値の対策においてはクエン酸Na検体での測定（補正必要）やVoltex撹拌（２分）等が紹介された。また、MCHC上昇の原因として赤血球異常（凝集・形態）、肝疾患（膜抵抗性増大）、血清浸透圧の影響については（低Na血症）生体内での血清浸透圧低下と分析装置内での外液浸透圧の逆戻りが示されMCVの低下、MCHCの増加となるメカニズムが分かりやすく紹介され、日常遭遇しがちな症例に対する知識が深まったことと思う。　（文責：橋口恵子）

テーマ　輸血管理部門としての役割を知ろう

主催　輸血検査研究班

実施日時：平成27年５月21日　　19時00分～20時45分
会　　場：大宮ソニックシティ 604号室　　点数：専門教科－20点
講　　師：神山　　泉（埼玉県赤十字血液センター 学術課）
山田　　攻（埼玉医科大学病院）
長谷川卓也（上尾中央医科グループ 上尾中央総合病院）

伊丹　直人（埼玉県立がんセンター）
参加人数：会員50名　賛助会員３名
出席した研究班班員：渡邉一儀　山田攻　佐藤祥子　神戸考裕　長谷川卓也　齋藤翔子
武関雄二
研修内容・感想など

今回の研修会は「輸血管理部門としての役割を知ろう」というタイトルで輸血療法の実施に関する指針、３施設の輸血療法委員会活動の実際についての講演であった。

輸血療法については、輸血療法の目的から始まり、適正な輸血、輸血管理体制の在り方、緊急時の輸血、検体の取り扱い、実施体制の在り方、輸血に伴う副作用・合併症と対策等の講演であったので輸血療法の重要性が再認識できたと思う。

さらに、県内を代表して３施設の病院の技師の方には、各施設で行われている輸血療法委員会での活動内容について説明していただいた。委員会では血液製剤の使用・廃棄集計や輸血事例及び監査、情報伝達が行われていた。そして、適正輸血の監査は各病院よって様々であるが、Hb、PT時間、Plt数値を継時的に比較することやDIC症例はスコア再計算を導入しているところは大変参考になったと思う。また、輸血後感染症検査の実施率に関しても工夫と努力をすれば改善できると感じた。この研修会の内容を参考にして各施設の輸血療法委員会の課題や、病棟監査の実施方法・内容の工夫に役立てていただければ幸いである。

（文責：武関雄二）

テーマ　尿蛋白のあれこれ、知ってて当たり前？！
平成26年度埼玉県・埼玉県医師会精度管理報告　～一般検査部門～
尿中に出現する蛋白の種類とその意義について
蛋白の検査法について　～定性検査と円柱を中心に～

主催　一般検査研究班

実施日時：平成27年５月22日　　19時00分～21時00分
会　　場：浦和コミュニティーセンター　第15集会室　　点数：専門教科－20点
講　　師：猪浦一人（埼玉県済生会栗橋病院）
槇島　碧（株式会社ＬＳＩメディエンス）
室谷明子（埼玉医科大学国際医療センター）
参加人数：会員53名　賛助会員１名　非会員４名（申請中）
出席した研究班班員：川音勝江　山浦久　深田茂則　小関紀之　山本英俊　室谷明子　槇島碧
研修内容・感想など

今回は、尿蛋白をメインテーマとして講演していただいた。前段に猪浦技師より、昨年度の精度管理調査の報告があった。昨年度の傾向として目視判定施設における糖定性項目で、高値傾向を示す結果があり、判定までの反応時間が影響しているのではという話であった。

本編の槇島技師の講演では、尿蛋白が約300種類もあるという話から始まり、糸球体においてはサイズバリア、チャージバリアによって漏出しないようになっている点、また腎前性、腎性、腎後性蛋白尿とその出現機序も分かりやすく解説していただいた。続く室谷技師からは、尿中に出現するα1ミクログロブリンやβ2ミクログロブリン、ベンス・ジョーンズ蛋白など個々の蛋白の意義、またそれらの検査法である、免疫電気泳動法やネフェロメトリー等を図表付きで詳しく解説していただいた。後半では尿細管腔で形成される円柱の形成機序から多くのスライド写真を交えてその鑑別について解説があった。尿沈渣成分は実際に見てみる事が大事であり、今回の写真と解説は非常に有効であったと思う。

（文責：山浦久）

平成27年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第２回　理事会議事録

日　時：平成27年５月８日（金）19時00分より
場　所：埼臨技事務所
さいたま市浦和区領家７－14－７
議　題：Ⅰ．行動報告　　Ⅱ．報告事項
Ⅲ．承認事項　　Ⅳ．議題
出　席：（理事）津田　神山　島村　岡田　矢作
小山　奈良　長岡　伊藤　松岡
小島　濱本　藤井　山口　鳥山
野瀬　神嶋
（監事）遠藤

本日の理事会の出席者は18名であった。理事の出席者は17名で、現在数20名の過半数に達しており、定款第33条第１項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第１項より、津田聡一郎会長が務めることとなった。

Ⅰ．行動報告（平成27年4月9日～平成27年5月7日）

４月９日（木）平成27年度公益社団法人第１回理事会：
津田、神山、岡田、矢作、小山、奈良、猪浦、長岡、伊藤、松岡、小島、濱本、藤井、山口、鳥山、武関、野瀬、神嶋、遠藤、細谷
４月９日（木）第１回会計部会：島村、松岡
４月15日（木）第１回事業部会：
濱本、藤井、長澤、神嶋
４月17日（金）第44回県学会第６回実行委員会：
岡田、長岡
４月17日（金）第２回会計部会：松岡、小島
４月18日（土）会計処理：松岡
４月25日（土）第４回会計部会、監査：
津田、島村、松岡、小島、遠藤、細谷
４月27日（月）第１回検査室管理運営委員会：
津田、濱本、藤井、伊藤、小島

Ⅱ．報告事項

１　事 務 局

1）人間総合科学大学より講師依頼があり、神山副会長にお願いをした。
2）日本糖尿病療養指導士認定機構より、日本糖尿病療養指導士の認定更新に関するお願いがあった。
3）新会員管理システムの取扱説明会出席について
津田会長、矢作事務局長、猪浦理事が出席することとした。
日　時：平成27年５月16日（土）
14時～17時
会　場：福岡サンパレス２階「末広」

２　総 務 部

1）「埼臨技だより」第432号、５月15日発行予定

３　事 業 部

1）４月15日、第１回事業部会（メール会議）を開催した。
2）４月27日、第１回検査室管理運営委員会を開催した。

４　学 術 部

1）27年度の関甲信支部・首都圏支部合同一般検査研修会は埼玉県が担当する。
2）７月５日開催の輸血研究班実技研修会の会場変更を行った。
3）輸血研究班研修会で使用する譲渡血についての契約書を日本赤十字社血液センターと交わした。
4）臨床化学３県合同研修会は埼玉県が担当する。

５　精度保証部

1）平成27年度日臨技臨床検査データ標準化事業の代表者会議は中止となった。

６　会 計 部

1）平成27年度正会員費94名分470,000円、入会金14名分14,000円、合計484,000円の入金があった。
2）理事会各部、各研究班に今年度活動費前渡金を支払った。
3）Ｈ＆Ｔに今年度システム保守費用216,000円を支払った。
4）だより第431号印刷代115,128円を石井印刷に支払った。
5）極東製薬株式会社より疑似便特許使用料と

して18,841円の入金があった。

７　精度管理委員会

1)特になし

８　一都八県会長会議

1)特になし

９　日臨技関甲信支部

1)特になし

10　日臨技

1)特になし

11　第44回埼玉県医学検査学会

1)４月17日、第６回実行委員会を開催した。

Ⅲ．承認事項

１　事務局

1)会員動向（会費納入済）（平成27年度分）

平成27年５月７日現在

会員数 2,426名

（新入会員 36名［平成26年度会員数2,441名］）

賛助会員 33社［平成26年度 79社］

2)平成27年度臨時会員総会日程について

平成28年３月17日(木)に開催予定とする。

２　総務部

1)特になし

３　事業部

1)特になし

４　学術部

1)臨技会誌投稿既定、方法の見直しについて

2)第52回日本臨床生理学会の後援について

５　精度保証部

1)特になし

６　会計部

1)平成26年度決算報告について

Ⅳ．議題

１　平成27年度会員名簿作成について

標記の件について、奈良総務部長より発言があった。これを受け理事会審議の結果、

今年度はＣＤでの発刊とし、各施設及び賛助会員へ１枚、個人会員をはじめ申し出のあった会員へ送付することとした。また作製に関してはコピーガード及び印刷不可のセキュリティーにも配慮することで、出席理事全会一致で承認した。

２　平成28年賀詞交歓会について

標記の件について、濱本事業部長より発言があった。これを受け開催日や会費について等理事会審議の結果、平成28年１月８日(金)、ラフレさいたまにて会費8,000円で開催することを、出席理事全会一致で承認した。

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

埼玉県立大学大学院

保健医療福祉学研究科 保健医療福祉学専攻

平成28年度 入学生募集（博士課程）

（博士前期課程）

専　修

・看護学　・リハビリテーション学
・健康福祉科学

学　位

・修士（看護学、リハビリテーション学、健康福祉科学）

特　徴

・リカレント教育に軸足をおいた大学院（社会人が学びやすい教育環境を整備）
・平日夜間、土曜開講
・長期履修制度
・サテライトキャンパス（共通科目を中心に開講）ＪＲ京浜東北線北浦和駅徒歩３分

試験日

平成２７年９月６日（日）
※出願期間：平成２７年７月２７日（月）
～　７月３１日（金）

（博士後期課程）

学　位

・博士（健康科学）

特　徴

・大学院修士課程を修了した保健・医療・福祉の専門職を対象とし、地域住民が必要とする健康を保ち高めるための支援という社会的課題に応えることのできる研究者、教育者及び指導的能力を有する職業人を育成する。
・標準修了期間３年間

試験日

平成２８年３月６日（日）
※出願期間：平成２８年２月１６日（火）
～　２月２２日（月）

大学院説明会を開催します！！

平成 27 年 6 月 14 日（日）
博士前期課程：午前 10 時～12 時　　北棟 3 階　中講義室 343
博士後期課程：午後 1 時～2 時 10 分　北棟 2 階　小講義室 203-204

オープンキャンパスと同時開催

★募集要項の請求等は、埼玉県立大学のホームページをご覧ください。

埼玉県立大学　検索　http://www.spu.ac.jp/

募集要項は携帯サイトからも請求できます！

埼玉県マスコット「コバトン」

【お問い合わせ先】
埼玉県立大学事務局　教務・入試担当
〒343-8540　埼玉県越谷市三野宮820
電　話　048-973-4117
ＦＡＸ　048-973-4808
E-mail　nyushi@spu.ac.jp

求人案内

○医療法人社団 愛友会　三郷中央総合病院
採用条件：正職員
連 絡 先：048－953－1321　検査科　石野

○越谷市立病院
採用条件：臨時職員（パート）　産休代替
連 絡 先：048－965－2221　内線2221
臨床検査科　吉原

○独立行政法人 地域医療機能推進機構 さいたま北部医療センター
採用条件：臨時職員（パート）
連 絡 先：048－663－1671　内線203
総務・企画課　二宮

○東松山医師会病院
採用条件：臨時職員（パート）
連 絡 先：0493－24－7871　検査科　田中

○ヘブロン会　大宮中央総合病院
採用条件：正職員　臨時職員（パート）
連 絡 先：048－663－2501　人事担当

○防衛医科大学校病院
採用条件：非常勤職員
連 絡 先：04－2995－1511　内線3016
庶務課人事第１係　今福

○草加市立病院
採用条件：臨時職員（パート）
連 絡 先：048－946－2000 内線3004
経営管理課　庶務係　吉村

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

あ　と　が　き

「お姉ちゃん、年を取ったら、もっと赤い口紅を付けなきゃだめよ。」
「そんなもんかのお。」
「私の口紅を付けてあげるわ。」
「ほお～らね。とってもいいじゃない。」

米寿祝いの日を迎えた母親と78歳の叔母の会話である。母親は数年ぶりに、化粧をしてレースのワンピースを着た。鏡に映った姿が気に入ったのか、曲がった腰をまっすぐ伸ばし、ポーズを取って私達を笑わせてくれた。

叔母は元来着飾ることが上手で、美しい人であるが、母親もそれなりにステキになった。こんなに年を重ねても、まだ女性であることを意識している。

今朝の私はといえば、お化粧をしないで出勤してしまい……ショックだった。
この先、ちょっと「賓のあるおばあちゃん」でいられるよう、いろいろ研鑽を積んでいかないと。まだまだ、気を引き締めて。

（伊藤　記）